

# AI時代の到来による 急激な変化に対応する



スーパーマイクロ株式会社  
ゼネラルマネージャーFAE&ビジネスデベロップメント

佐野 晶 氏  
AKIRA SANNO

ピクセルカンパニーズ株式会社  
代表取締役

吉田 弘明  
HIROAKI YOSHIDA

## AI時代の到来

— ChatGPTの出現以降、日々あらゆるAIに関するニュースを耳にするようになりました。お二人はどのようなニュースに注目していますか？

**吉田:** 日々新しいニュースが出ていますよね、ここで佐野さんとお話したことも明後日には古いニュースになってしまいそうです(笑)\*本対談は23年10月17日  
個人的には、伊藤園のお〜いお茶がいち早くAI女優を活用してCMを作ったニュースは驚きました。今後俳優さんが不要になる！という話ではなく、思ったよりも商用利用が早いという意味で。

**佐野:** わかります。生成AI周辺はどんどん新しい取り組みが行われていて、いろんなニュースが矢継ぎ早に出てきます。「どうAIを活用するか」という点については、現在社会的に大きな実証実験が行われているような印象を受けています。やはり22年11月にChatGPTがリリースされここまで広がりを見せたこと、NVIDIAの時価総額が1兆ドルを超えたことは今年の最も大きなニュースですね。

**吉田:** そうですね。その2つのニュースはこの業界にとって大きな歴史的マイルストーンになりました。AI市場に関しては「突如現れた18兆円市場」なんて言われていたりもするのですが、2022年末～現在にかけて、大きく世界が変化していているのを感じています。

## GPUの争奪戦が始まる

— 既存事業のドラスティックな変化と、AIという新分野での競争激化が起こりそうですね。今後の競争の鍵はどんなところにありそうですか？

**吉田:** そうですね。弊社で推進しているデータセンター事業については、よく「時流にのっているね」なんて言われるのですが、取り組み始めたのは2022年9月～10月なんです。ChatGPTがリリースされたのは22年11月ですし、日本で大きく話題になり始めたのは23年1月ごろなので、実はそれ以前からスタートしていたんですね。  
競争の鍵ということかというと、みんなが重要だ！と「気づいた後」だともう遅くて、いかに早くその場所にいるかという点が重要だなあと感じています。

佐野: 本当にその観点は重要だと思います。AIの演算処理にはGPUが不可欠なのですが、先端研究が激化しているアメリカではすでにGPU不足が深刻になりつつあります。AIを使いたい、ビジネスイノベーションを起こしたい、と思っても肝心のGPUが手に入らない。AI分野においては特に高性能・高速処理のGPUの確保はビジネス上の生命線になるでしょうね。必要になった時に慌てて確保するというのはなかなか難しくなっています。



吉田: 僕は本当に運が良かったというか(笑)、1年前から現在をみると、正直ここまでのGPU獲得に関して競争が激化がすると思わなかったです。もちろん優位になることを見込んで事業を進めてきましたが、ちょっと想定していたものとレベルが違う。

佐野: アメリカではGAFAMからベンチャーまで、多くの企業がGPUの獲得に苦しんでいます。そんな環境の中で、ピクセルカンパニーズが日本にGPUを引き込んでくれること、またそれを事業として推進することは非常に意義があることだと思います。

## 日本における課題とチャンス

— GAFAMと呼ばれる巨大テックもChatGPTを提供するOpenAIもまたアメリカの企業ですが、日本の企業や技術の状況はいかがでしょうか？

佐野: そうですね。やはりアメリカは強いですね。技術者を引き込む力とビジネスを構想する力、プラットフォームを作るという点に関しては非常に強みを持っていると考えられます。日本も技術や研究などで先行し、グローバルアドバンテージを持っていたりもしますが、やはり課題となっているのはプラットフォームや戦略的活用に関する視点のように感じられます。

吉田: 日本ではソフトバンクグループの孫さんの存在が際立っていますが、やはりプラットフォームや戦略的に

AIというテクノロジーの牽引者になる、というよりも事業活用の方に視点があるように思えます。NVIDIAやOpenAIのように領域を牽引するプラットフォーマーというよりは「どう活用するか」という方に主眼がある。

佐野: 日本らしいといえらしいかもしれません。(笑) 日本はコンテンツの国ですからね。「AIを使いこなす」という面ではどの国よりも強いかもしれませんね。まだ始まったばかりの領域ですが、なにせスピードが速いので、常に市場や技術の進化に目を光らせていく必要があるでしょう。

また、日本では経産省や内閣府側の動きにも注目すべきだと思います。2022年ごろから兆候がありましたが、2023年に入って急速に政府側も動き始めています。AIを新たなテックフロンティアとして捉えていて、国際競争力獲得に向けた狙いがあるはずですよ。

## 「誰もが使える」衝撃

— ChatGPTがプラットフォーマーたりえた原因はどのようなところにあったと思いますか？

佐野: 「誰でも使える」ということだったと思います。これは衝撃的でしたね。通常あのような技術であればtoBから入ってくるのか、特殊性や専門性の高い領域で試されてから入ってくるんですよね。でもChatGPTは誰でも使えますよね、あれがデカかった。一気に市場を掻き攪ってキャズムをようようと超えていきました。

吉田: そうですね。大学生でも論文やレポートでChatGPTを活用していますね。小学生も使っているかもしれません。(笑) インターフェースというか機能、ユーザビリティも「会話型」なのがシンプルで良かった。人間の根源的なコミュニケーションである会話を模しているのです、どう使うのかの複雑な説明が不要です。弊社もこうした技術や活用を推進する立場として、社員1人に1アカウント付与しています。AIに関しては「どのように使えるか」を話す前に実際に触れて、使ってみたほうがいい。実際、弊社の導入では教育コストが下がったり業務効率が改善されたりといった恩恵を受け始めています。

また、誰でも使えるのでノウハウが多く出回っておりどんどんハックされていくのが興味深いです。計画されたものだと思いますが、先進技術を「誰でも使える」というのは相当社会的なインパクトが大きいのだということが今回の件でわかりました。



## 検索エンジン以来の 歴史的インパクト

— AIの技術可能性は産業革命に匹敵するインパクトがあると思いますか？

**吉田:** 産業革命に匹敵するかというと難しいですね。いろんな見方ができますので。ただ、個人的なインパクトでいうと「検索エンジン」に匹敵するインパクトだなと思っています。いや、それ以上かもしれません。

**佐野:** 面白いですね。検索エンジンで現在のビジネスの覇権を握っているのはGoogleですが、彼らの検索エンジンによってインターネットは驚くほど便利になりました。インターネットとAI技術は似ており、その引き金を引いたのがGoogleとOpenAIだった、というのはわかりやすい比較構造のように思います。

**吉田:** 現在のグローバルビジネスの覇者であるGAFAMは全てインターネットを起点に成長してきた会社ですよね。そう考えるとAIによって彼らの覇権に変化が起こるかもしれません。とはいえ、AIは比較的彼らが得意な領域であると思いますが。(笑)

## エンジニアの仕事が変わる

— AIによって、これから人間の仕事はどのように変わっていくと思いますか？

**佐野:** いろんな領域で変化が起こるはずですよ。特定領域のことを学んだり、専門家に相談するのもエントリー的内容ならすでにChatGPTで十分でしょう。

**吉田:** 僕は生成AIの状況を見てると、デジタルクリエイターとかデザイナー、エンジニアの仕事が大きく変わってくるんじゃないかと思っています。特にエンジニア。そもそもプログラミング言語自体「機械語」なわけなので、AIは機械語の最適化は大得意だと思うんですよね。モノやサービスを「つくる」というのはAIに任せて、もっと想像力とか判断力とかチームワークとか...そうした人間らしい仕事に変わっていくと思っています。

**佐野:** 人に求められる仕事の質が変わりそうですね。デジタルに限らず専門人材はどんどん変化を求められていくでしょう。

## 「速さ」が競争力になる

— これからのAI時代に向けて、競争力獲得のキーワードがあれば教えてください。

**佐野:** 競争力の獲得といういろんな観点が考えられますが、個人的には「速さ」が大きな鍵になると思っています。これはいろんな意味合いを含んでいて、もちろんGPU自体のスピードもあるんですが、意思決定の速さとか、仕込みの速さとか...日々多くのAI関連のニュースを目にしますが、とにかく動きが速い。

**吉田:** そうですね、僕も重要なキーワードをあげるとしたら「速さ」かもしれません。弊社で推進しているデータセンター事業はコンテナ型で進めていますが、コンテナ型の最大のメリットは「速さ」なんです。建物型だと着工から完成～稼働開始まで2~3年かかってしまいますが、コンテナ型であればスピーディに着工から稼働開始まで進めることができます。

## 【対談】AI時代の到来による急激な変化に対応する

**佐野:** GPUはムーアの法則を超えて進化し続けていきますから、進化に準じたハードの設計やビジネスの戦略が重要です。今回ピクセルカンパニーズとともに推進しているデータセンターについては、スピードという観点でも大変現代的であると感じられます。

GPUの進化と同時に、AIでできることもどんどん増えていくでしょうし、AI自体のスピードが進化すれば生活や仕事との同期性もより高まるでしょう。

**吉田:** ビジネス環境の変化速度が凄まじいですからね。私たちもスピードを上げて変化していかなければなりません。この市場で戦う、とはそういうことなのだと思います。

**佐野:** 速さ以外にも、もちろんレジリエンスやサステナビリティといったキーワードも重要だと考えていますが、これらは私たちが進めているデータセンターの設計について詳細をご紹介できる機会にとっておきたいと思います。(笑)

**吉田:** そうですね、データセンターの設計については現代のビジネスに求められる要素をあらゆる角度で議論しながら進めています。お披露目の機会が楽しみです。ピクセルカンパニーズでは、データセンター事業の推進とともに、AI時代に不可欠なクラウド・インフラエンジニア人材の支援も行っています。多くの日本企業がAIイノベーションに取り組めるよう全力を尽くしていきたいです。



### スーパーマイクロ株式会社

ゼネラルマネージャー FAE&ビジネスデベロップメント 佐野 晶氏

佐野 晶は、Supermicroにてゼネラルマネージャー FAE & ビジネスデベロップメントを務めており、日本および韓国のFAEチームを率いて、お客様にたいして最適化したシステムやソリューションの開発、カスタマイズ、提案から導入支援まで一貫してサポートし、日本とアジア向けビジネスを牽引しています。サーバー、ストレージ業界に25年以上携わり、特にHPC、AIやディープラーニングのソリューションに対しては提案、導入から運用、アプリケーションに関する提案まで、豊富な経験と実績を持ち合わせています。また、Supermicroにおいては、日本オフィスの立ち上げメンバーであり、Supermicroの技術と製品に最も精通している日本随一のエンジニアです。